

令和5年度 飯田コアカレッジ 自己評価報告書

令和6年5月1日

1. 実施方法

学校評価委員会を設置して、教職員全員による自己点検・評価を実施し、その結果についてこの報告書にまとめました。

※評価方法 4（適切）から1（不適切）の4段階で評価。
 （適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1）

2. 自己評価結果

(1) 教育理念・目標

評価項目	評価 1～4
① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
② 学校における職業教育の特色は何か	4
③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
④ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか	4
⑤ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

現状の課題と解決策

<ul style="list-style-type: none"> 従来から地元の産業経済界等のニーズを踏まえてカリキュラムを改善してきているため、特段の課題はない。また、本年度は、課題となっていた地元医療関係事業所からの求人が少ないIT医療事務学科を募集停止として、求人の多いITビジネス学科と発展的に統合することができた。各学科の特色が明確にされていないため、学生自身が目標を明確にすることが難しいと考える。社会ニーズの変化に柔軟に対応ができる体制づくりが必要と考える。 次年度からITスペシャリスト学科とITビジネス学科の2学科体制となるが、それぞれの学科について、地元産業経済界からのニーズに加えて、入学希望を含む若者のニーズを踏まえたカリキュラムを検討することが大切である。また、新カリキュラムにふさわしい学科名を検討して実現していくことが、将来構想につながると考える。 地域性を活かしたカリキュラム内容や段階的に達成感を得られる授業展開を実践し、学生の得意分野を広げ、自己肯定感を高めることが求められている。
--

(2) 学校運営

評価項目	評価 1～4
① 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
③ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
④ 人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
⑤ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
⑥ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
⑦ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

現状の課題と解決策

<ul style="list-style-type: none"> 学校運営全般について透明性が担保された健全かつ適正な運営がなされている。一方で、組織として意思決定が機能していない部分があり、今後の健全な運営維持のために課題となっている。 また、部署間における情報共有が徹底されていない場合があるため、それぞれの業務に支障が生じることが懸念される。定例会議への全員の出席等情報の共有を徹底したい。 今後も健全な運営の継続が求められるが、その実現のために学校法人コア学園の理事会・評議員会によるチェック機能の強化が一層重要である。また、内部においても中長期的な運営方針を明確にし、定例会議時の情報共有の徹底を図るとともに、学生ファーストの姿勢に則った学習環境を維持する。

(3) 教育活動

評価項目	評価 1～4
① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
② 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた、学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の、工夫・開発などが実施されているか	4
⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
⑥ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか	3
⑧ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含み)を確保するなどマネジメントが行われているか	3
⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか	3
⑭ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

現状の課題と解決策

<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育理念に沿ったカリキュラムを実行するためには専門的な知識・技能を有するとともに学生の人間力の伸長を促すことのできる教員の確保が当校の重要課題の一つである。学生の学習意欲にも大きく影響をおよぼすため、適性のある人員の確保が急務である。 ・ 従来より、地元の製造業および情報産業界等と密接な連携を継続しており、技術者の方を講師として派遣していただいている。今後は、地域社会からのニーズがある建設業界等からの講師派遣についても要請していくことも大切である。また、学生のニーズも反映したカリキュラムを検討し、学習意欲の向上と満足度向上を図る。 ・ 100団体を超える当校の協賛会、職業安定協会をはじめ地域の業界団体、若手経営者の団体等との連携がより一層深化しており、職業教育、資格取得や技能習得、さらにはキャリア教育の充実に繋がっている。これらの連携をさらに発展させ、職業教育の充実を図っていきたい。

(4) 学修成果

評価項目	評価 1～4
① 就職率の向上が図られているか	4
② 資格取得率の向上が図られているか	4
③ 退学率の低減が図られているか	4
④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

現状の課題と解決策

<ul style="list-style-type: none"> ・ 本年度も早期に学生の就職内定を得ることができた。10年連続で就職内定率100%を達成できたことは、学生の努力もさることながら、地元の産業経済界との連携および学生指導を担当した教員の努力のたまものである。今後、学生の意思を尊重した就職支援を継続するためにも、すべての教職員が進路指導担当者の一人であることを認識して、あらゆる機会にキャリア教育を実践していくことが必要であり、教職員の質の向上も図らなければならない。 ・ 毎年何らかの事情でリタイアしてしまう学生がいるが、短期間のうちに退学者が続いたことは、教職員が反省すべき点であり、学生の変化を見逃さないよう向き合う姿勢が必要である。しかしながら、学生数が増えたことにより充分かつ適正な教員体制が整っていないことにより限界が生じている。また、非常勤講師との情報共有を強化し、学生個々のフォローや変化に対応できる体制を確立することが必要である。 ・ 地元就職について丁寧で熱心な指導により成果を上げており、近隣の高等学校をはじめとする関係する方々からも評価をいただいている。引き続き、地域社会の未来を支える人材育成を目指していきたい。また、就職先とのマッチングや自己決定するまでの過程を重視した指導を徹底したい。
--

(5) 学生支援

評価項目	評価 1～4
① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
② 学生相談に関する体制は整備されているか	4
③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
④ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
⑤ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
⑥ 学生の生活環境への支援は行われているか	4
⑦ 保護者と適切に連携しているか	4
⑧ 卒業生への支援体制はあるか	4
⑨ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
⑩ 高校・高等専修学校等の連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4

現状の課題と解決策

<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の実態把握と学生生活全般の指導助言については、その確実な実行とともに教職員が日々改善を心がける必要があり、チューター制度を機能させ教職員個々が学生の育成に対して高い意識を持つことが大切である。 ・ 定期的に学生の状況を報告し情報共有をしているが、恒常的に教職員間における縦横の情報交換の実施と課題に対する迅速な対応が大切である。また、学生が相談しやすい環境づくりも必要である。 ・ 保護者会の開催等を通して、学生の就職活動における理解や学習成果について情報を共有し、共通の認識ができるよう努めている。また、教員と学生の適切な距離感を保ちながら良い関係を早期に構築することを意識していきたい。

(6) 教育環境

評価項目	評価 1～4
① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
③ 防災に対する体制は整備されているか	4

現状の課題と解決策

<ul style="list-style-type: none"> ・ ここ数年で教育環境は著しく改善した。今後も予算を確保して教育環境の整備を継続し、学生の満足度を向上させたい。また、改修後の状態を維持できるよう管理していくことや日ごろの5S活動を怠らないようにする。 ・ インターンシップを導入することが就労の際のマッチングに有益であるという考えから、早期離職の低減を図るためにもカリキュラムへの導入も検討したい。 ・ 大雨や大雪警報時には事前にメール等での注意喚起や災害時の通学路の安全確認を実施している。
--

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	評価 1～4
① 学生募集活動は、適正に行われているか	4
② 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
③ 学納金は妥当なものとなっているか	4

現状の課題と解決策

<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生募集において、広報活動、特に高校生等に学校の存在を知ってもらうことが重要である。現状、十分に認知されているとは言えないので、あらゆる機会を利用して広報活動を推進していく必要がある。また、学生募集が当校の財源であり中長期的な学校運営を維持していくうえでの重要課題であることを、職員全体で共有することが重要である。 ・ 現状の学生数は、定員を満たしているものの18歳人口の減少は確実であるため、早期の対策が喫緊の課題である。学科の名称変更当社会的にインパクトのある情報発信の必要がある。また、SNSはもちろん様々な媒体を利用した情報発信工夫することが大切である。 ・ 飯田市をはじめ近隣自治体の回覧板による「高度人材育成コース(社会人学生)」の周知など地道なPR活動を実施した。また、学生の出身高校に対して教育成果として内定や資格取得の実績報告を実施している。
--

(8) 財務

評価項目	評価 1～4
① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
③ 財務については会計監査が適正に行われているか	4
④ 財務情報公開の体制整備はできているか	4

現状の課題と解決策

<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育部門全体は黒字経営が継続しており、現状特段の課題はない。しかし教育部門を補填するための収益部門については年度によっては、赤字が散見されており、その体質の改善が求められている。今後、学生数を確保できない場合のためにも早期の改善が必要である。 ・ 専門課程の学生募集以外にも社会人を対象にしたリスクリング講座や研修等など、安定的な財務を維持するための中長期的な方針の決定が必要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 会計監査は学園監事により適正に行われているが、学園理事会において理事長より経営面について改善すべき点が報告されている。今後は教職員も交えた場で改善策について検討を進め、理事会等において具体的な提案をしていく必要がある。

(9) 法令等の遵守

評価項目	評価 1～4
① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
② 個人情報に関し、その保護のため対策が取られているか	4
③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
④ 自己評価結果を公開しているか	4

現状の課題と解決策

<ul style="list-style-type: none"> ・ 特段の課題はないが、今後も継続してコンプライアンスに関する校内研修等を実施していきたい。また、学生の個人情報の扱いについては、より一層注意し、管理を徹底していきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価実施後提出された課題について職員で共有し、改善策を具体的に検討していきたい。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価 1～4
① 学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献をおこなっているか	4
② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
③ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4

現状の課題と解決策

<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育訓練については「高度人材育成コース」および「教育訓練支援制度」等を活用したリスクリングについて、さらに広報活動を充実する必要がある。担当者を中心にあらゆる機会を利用した広報活動を実施しているところであるが、募集期間を限定せず、年間を通じた広報活動行うことが大切である。なお、広報活動に際して過去の受講者の就職先など成功事例をアピールすることも重要である。 ・ ボランティアについては、自主的に参加を希望する学生が減ってきている。自治体等のイベントに学校として参加した際には、学生の自己肯定感の向上につながっているため、今後も積極的に推奨し、学生が参加しやすい環境を整えたい。 ・ 学生主催のパソコン教室や飯田市から委託された市民対象「デジタル活用講座」に加え、主にご高齢の方を対象にした「おもしろパソコン塾」等地域貢献事業を実施している。
